

J A全農岐阜と岐阜大応用生物科学部

農業振興で協定締結

J A全農岐阜と岐阜大応用生物科学部は21日、農業振興と地域貢献のための連携や協力に関する協定を結んだ。美濃加茂市の岐阜大農場に、飛騨牛の肥育を学ぶ研修機能を設置することなどを検討している。

J A全農岐阜によると、全農グループが地域の大学と同様の連携協定を結ぶのは全国初。両者は2014年ごろから、飛騨牛のブランド力を高める学生を取り組み「飛騨牛倶楽部」などを通じて連携を深めており、締結につながった。当面は飛騨牛に関する連携がメインとなる見込み。締結式は岐阜市宇佐南の県農協会館で開かれ、J A全農岐阜の桑田博之県本部長、同学部の福井博一学部長に、農政部の高木敏彦部長に加え、立会人として県農政局の出席した。



協定書を手にする(左から)桑田博之県本部長、福井博一学部長、高木敏彦農政部長＝岐阜市宇佐南、県農協会館

福井学部長は「(協定の締結で)農業や農村、農産物を通じた地域活性化を支える土俵ができた。何らかの成果を実らせていきたい」と述べた。

(舌間隆博)